



トヨタネ株式会社 本社：豊橋市向草間町字北新切12-1 / 〒441-8517 / TEL0532-45-4137(代) / FAX0532-45-4494

社内報：第25号・発行所：総務部経営企画課・編集・構成：朝倉芳則

HP <http://www.toyotane.co.jp> Email : info@toyotane.co.jp

写真：50周年記念展示会（トヨタネカタログの歩み）

創業50周年誌発刊にあたって

弊社創業50周年に当たり、ささやかな社史を編纂させていただきました。50年は半世紀、かつて人生50年と言われた時代がありました。現在では現役で働ける時間が約50年です。とは言ってもさすがに100周年時に創業時を生き語り語る人はいないでしょう。50年はやはり大きな節目、未来のため会社の羅針盤として歴史を記録することは、意義あることと考えました。しかしこれも50年間ご支援いただいたお得意様、仕入れ先、関係先、そして何よりも歴代の諸先輩、創業役員、また社員スタッフ皆様のお蔭と改めて感謝申し上げます。

昭和43(1968)年10月31日、弊社は豊橋・田原の4種苗店



が新たに資本を出し、社員を転出させて産声を上げました。振り返ればまさにジャストタイミングでした。同年は東三河全域に豊川用水が開

通し、(写真は逆より)地域農業の劇的な近代化が予想できる年でした。また日本経済は毎年10%以上の高度成長期、工業の発展と同時に農業も高度成長期を迎えました。まさに「旬」だったのです。そうした時に手前味噌ではありますが、企業合同を成し遂げた4人の創業者の才覚、そして並外れた幸運を感じずにはられません。性格や考え方も全く異なる4人の経営者の下で働く社員はもっと大変だったと思います。しかし需要が供給をはるかに上回る時代、内部の軋轢にとられる間もなく、どんどん拡販できたことが今日まで続く最大の要因であったことは間違いありません。新会社を信じて多くの注文を出していただいたお客様のおかげと改めて御礼申し上げます。

創業50周年を迎えるに当たり、未だに完全には解けない疑問があります。創業前、私は小学生でした。何度も父親の車に乗って現在の本社地を見に来ました。車の中で深刻そうに話し合う父と母の会話をよく覚えています。50周年を迎えるに当たり、残念ながら創業時の4名は既に



川西 十三雄
from
川西種苗店(駅前大通り)
トヨハシ種苗初代社長。学者肌の
理論家。



二村 誠
from
ヤマニ種苗株式会社(東松山町)
ハウス・農業資材の専門家。



近田 和夫
from
チカタ種苗店(新川町)
地域に顔が広く、営業部門を担
当。一貫して営業畑を歩む。



福井 利男
from
福井種苗店(田原町)
財務・総務を担当。厳格厳密な
性格で、会社を取り仕切る大番
頭役。

この世を去っています。最大の疑問は、誰がトヨハシ種苗((現トヨタネ)設立構想を持ち出したのか、またどうして合意できたのかです。実はこのことは私の父も含めて、創業者4名の誰からも具体的に聞いていません。それはある意味素晴らしいことで、誰も自分の手柄にしなかったということの意味します。近年ほぼ定説になったのは、創業の一人が、最重要な仕入れ種苗メーカーの協力を得ながら発案し、他の3名が時節や当時の商売環境を総合的に勘案し、合意に至ったということです。合意の中の一つが、新会社は販売会社でありながら、自前の「研究農場」を持つということでした。このこともその後の弊社の発展と人材育成、商品開発につながったのです。

私たちトヨタネはこれからも「豊かさ実る、タネを。」を合言葉に、園芸農業の種蒔から収穫までの様々な課題解決に役立つ企業を目指して、真摯に、そして誠実に歩んで参ります。皆様の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【川西裕康】

農場だより

研究農場の現状を報告します。9/30台風24号が直撃して多くの露地畑で塩害が発生しました。当社農場でも1日停電が続き施設栽培では、トマト・パプリカ・キュウリに水を掛けるのが精一杯で露地の作物は後回しになりました。その後露地のキャベツ・ブロッコリーには、消毒・液肥の散布と被害を最小限にとどめようとスタッフ一同、畑に入りなんとか回復を祈り手入れをしてきたのが現状です。露地の作物は10月の穏やかな天候にめぐまれ、生育が回復してきています。キャベツ・ブロッコリーは、温度が10度以下になると極端に生育が遅くなるので、この11月が管理作業で生育をすすめるのが勝負になります。穏やかな天候の内に管理していきます。さて11月21日・22日はトヨタネ50周年の展示会です。研究農場でも施設ではトマト・ミニトマト・パプリカ・キュウリ・産直向け品種の栽培展示。露地ではキャベツ・ブロッコリーの展示をします。多くのお客様に会場して、見てもらえるように精一杯管理していますのでご期待ください。



その後露地のキャベツ・ブロッコリーには、消毒・液肥の散布と被害を最小限にとどめようとスタッフ一同、畑に入りなんとか回復を祈り手入れをしてきたのが現状です。露地の作物は10月の穏やかな天候にめぐまれ、生育が回復してきています。キャベツ・ブロッコリーは、温度が10度以下になると極端に生育が遅くなるので、この11月が管理作業で生育をすすめるのが勝負になります。穏やかな天候の内に管理していきます。さて11月21日・22日はトヨタネ50周年の展示会です。研究農場でも施設ではトマト・ミニトマト・パプリカ・キュウリ・産直向け品種の栽培展示。露地ではキャベツ・ブロッコリーの展示をします。多くのお客様に会場して、見てもらえるように精一杯管理していますのでご期待ください。

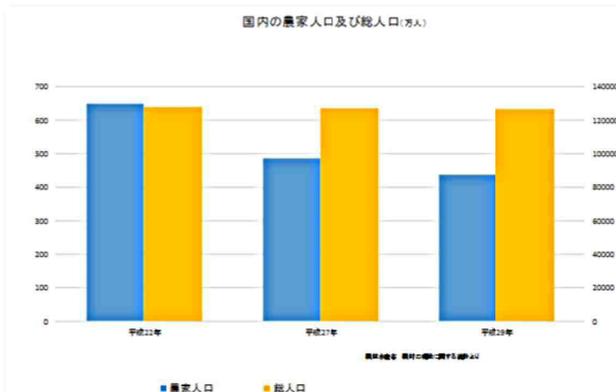
が現状です。露地の作物は10月の穏やかな天候にめぐまれ、生育が回復してきています。キャベツ・ブロッコリーは、温度が10度以下になると極端に生育が遅くなるので、この11月が管理作業で生育をすすめるのが勝負になります。穏やかな天候の内に管理していきます。さて11月21日・22日はトヨタネ50周年の展示会です。研究農場でも施設ではトマト・ミニトマト・パプリカ・キュウリ・産直向け品種の栽培展示。露地ではキャベツ・ブロッコリーの展示をします。多くのお客様に会場して、見てもらえるように精一杯管理していますのでご期待ください。

[水谷雅祥]

施設園芸協会での1ヘクタールハウス検討

現在施設園芸協会で、日本型大型モデルハウスの仕様検討として、1haのハウスに関して意見交換を行っています。参加メンバーはいろいろな会社が参加しているので、1haハウスに対する考えも様々ですが、共通点としては大規模化が今後進んでいくと考えていることです。

しかし大規模のイメージと現実はかけ離れていて、国



としては数ha規模のハウスを次世代施設園芸として推進してきましたが、現状は土地や人の問題から一部の建設のみになっている状況で、トヨタネの業務も大半は1反規模のハウスとなっています。最近では若手の生産者が2～5反規模のハウスを建てるようになっていますが、全国的に見るとまだまだ大規模化は進んでいません。

農水省のデータでは平成22年から29年で国内の農家人口は3分の1減少していて、総人口が1%減少したことを考えると、需要が減少している以上に大幅に供給が落ちていて、生産を続けていく生産者が今までよりも規模を大きくするか、生産性をいっしょに向上しないと、今までの需要を満たすことができなくなります。農業を応援する企業として、規模拡大と生産性向上を支援するためには、資材を販売するだけではなく、提案型の営業活動をいかに提案していくかが必要となります。施設園芸協会での検討を機会に、施設に関してトヨタネとして大規模化を応援できる体制を検討していきたいと思えます。

[三浦慎一]

ナーセリー通信

OFF THE BALLの考え方

OFF THE BALL (オフザボール) とは、サッカーで選手がボールを保持していない局面を指す言葉です。1試合90分の試合のうち、1人の選手がボールを保持する時間はわずか2分程度。選手は試合中のほとんどをオフザボールの状態です。



サッカーの醍醐味は、ドリブルやパス、シュートにあることに違いはありませんが、試合を通してみればそれはごくわずかな時間に過ぎず、ボールを持っていない時にいかに自身を含めた、周りの状況を見ることができるか？常にゴールを奪うために考えることができるか？で試合の勝敗は左右されます。

ナーセリー課での苗生産にも同じ考え方が当てはまります。苗のシーズンに発生した問題、不具合に対し、真剣に向き合い、更なる高品質苗、より確実な生産方法を目指し、課員の意見、アイデアを出し合い、今後の生産に活かしていきます。

苗生産におけるオフザボールでの過ごし方を充実させ、農業がさらに盛り上がっていくようなアシストができるように、良質な苗を生産し続けていけるように、研鑽を継続してまいります。

[内藤寛文]

第8回産業振興フェアinいわた2018

開催月日：2018年11月9日（金）～10日（土）

主催：磐田市 磐田商工会議所・磐田市商工会

会場：アミューズ豊田

出展企業：180社&企業交流会

●静岡県中心に三遠南信地区および全国より企業・団体180社参加が参加しています。

●モノづくり技術を中心とした「企業間交流」および「企業と研究機関の交流」です。

●学生に意欲的な企業情報を提供など



開会式ではヤマハ発動機・スズキ・浜松ホトニクスなどの各界トップリーダーによる産業界へのメッセージが行われました。スズキ(株)鈴木修会長は初回より参加されているようです。高齢を全く感じなくカリスマ性を感じます。

長は初回より参加されているようです。高齢を全く感じ



今回で当社は3回目となる出展です。出展内容はココバグ栽培のミニ栽培展示と、関連する養液栽培用の苗も展示

を行いました。今回は磐田ナーセリーの本格操業に向けての説明展示でもあります。環境機器であるプロファームおよびトリシードハウスのPoster展示やMovieによる説明を行いました。また主催内容の一つでもある「学生のための業界・企業研究フェア」の参加でも出展を行っています。展示方法はMovie、Posterなど活用しての説明です。愛知県内の学生の方もブースへ訪問いただきありがとうございます。

[朝倉芳則]

レゴランド

創立記念行事として10月28日（日）レゴランドジャ



パン・日帰りバスツアーが企画され参加しました。台風が頻繁に日本列島を縦断しましたが当日は台風も反れて天気も良かったですね。交通手段は貸切バス、自家用車の方、公共交通機関の方と様々でした。参加者は約160名ほどと聞いております。内容は家族OKの参加型

です。レゴランドジャパンは基本的に2歳から12歳の子どものとその家族を対象としたものです。ただし大人だけでもOKのようです。対象が2歳から12歳ですが結構アトラクションなどの乗り物に乗れない子ども達を見かけました。車のチャイルドシートのように席を工夫して乗れる条件の幅を広げて欲しいものです。レゴブロックの創作

可能性で色々作られていました。個人的には動いたり光ったり色が変わったり音が出たりが良いと思います。これは大人の発想？レゴブロックで昆虫や野菜も良いですね。この写真の船の浮かんでいる海、水にしか見えないですが「海」「湖」に見える工夫演出ができないものか？興ざめしてしまいます。昔黒澤明監督が七人の侍で雨を演



出するのに白黒映画で斬新な方法「雨となる水」に「墨」を溶かして映像に写るようにしました。創作活動、参加型が良いですね。個人的には何か足りない感じです。魅力あるものにするには主催

する側と参加する側、特に参加する側が決定権があります。楽しむよりここはこうした方が良いのではと考えて

しまいます。子ども向けとはいえ大人も楽しめるもの。集客力の魅力とは！

[朝倉芳則]

e-BIKE

電動アシストのパイオニアは言えばヤマハですね。

最近TVを見ているとe-BIKEを取り上げていました。

e-BIKEは電動アシスト付きの自転車。電動アシスト自転車といえば、ママチャリのイメージで女性や年配者が乗るもののイメージですね。その売り上げは右肩上がりです。年間約60万台近くの販売数。e-BIKE（電動アシスト付き



自転車）とはペダリングを漕ぐ時に電気力で脚力を補ってくれる構造になっているものを指します。発進・通常・上り坂・向かい風でもアシストが続くので、向かうところ敵無しのBIKE。欧州ではE

バイクが人気のようです。ただし日本ではインフラ整備が出来ていないので普及に疑問が残るようです。欧州仕様はアシスト時間が長くスピード感やパワフルである設定となっています。まさにアシストでなくモーター駆動ですね。ある面で原付に近いものですね。私見ですがインフラ整備を行うより法整備や保険整備の方が有効であると考えます。原付バイク区分でエンジン付き（燃焼系）であるか、モーター付き（バッテリー系）であるかで良いのでは、また法令も保険も同等扱いで当然ナンバープレートも付けることで責任を負うことが出来ます。ブレーキ性能が劣ると考えられるためスピード制御機能の装着

も必要ではと思います。自転車とは全く違うもの。改めて考えたほうが良い時期と思います。1回の充電で100~200kmも走行できるのは魅力です。いい意味での普及を考えるとビジネス的に成り立つかどうか。車検制度や保険制度の運用で安全の可視化など運用する関連企業、その使用する側、両者に恩恵があります。また社会的責任もあります。

爆発的に普及するかどうか現時点で分かりませんがバッテリー性能は飛躍的に高まっています。「性能と責任」。

[朝倉芳則]

トヨタネ50周年記念展示会

11月21日（水）～22日（木）の両日シーパレスリゾート（屋内コート）で当社50周年記念展示会が開催されました。前回40周年の時も同会場で開催されました。今回出展企業72社の参加となっております。



(写真左：川西社長開催挨拶、右写真：TV収録の様子)

◇主要種苗メーカー

・トマト品種や各野菜品種の展示・説明



◇資材メーカー

・環境制御機器
・環境資材
・生産資材
・土壌改良資材
・その他関連資材の展示説明



◇トヨタネ展示ブース

・磐田ナーセリーの紹介
・ココバッグ栽培システム
・トリーシードアグリ・プロジェクト
・環境改善
・省力化
・環境制御・プロファーム展示・説明
・最新の農業資材・施設園芸資材を展示・説明
・トヨタネおすすめ商品など展示説明など

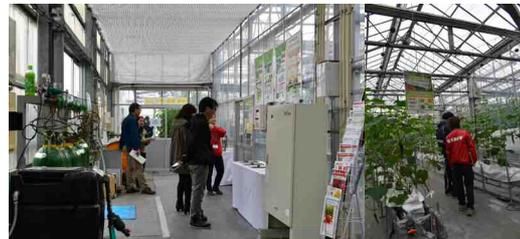


◇農場展示（展示会場：トヨタネ研究農場） 露地圃場



来場者に試験品種の説明を行っています。

施設圃場



来場者、環境制御や栽培システムなどスタッフによる説明。

その他（内定者方々の見学）



種苗ブースで説明を受ける弊社内定者の方々です。

[朝倉芳則]

編集後記

～ トヨタネカタログ50年の歩み ～



改めて表紙から草創期は農場を中心とした表紙となっていました。当時のスタッフの方々が表紙を飾っています。既に亡くなられている方々や退職されている方々などです。当時のサイズはB5サイズ、現在A4サイズです。現在の一般的なサイズ、世の移り変わりを表しています。当初のタイトルは「種&資材」、2000年春夏号より「種&施設」へ変更となっています。（発行：1999年10月31日頃）表紙は作物（スイカ、キャベツ、メロン、スイートコーン、トマトなどなど）です。最近の表紙を飾っているのは若手社員が飾っています。カタログの表紙から歩みを感じられます。50年は100年の折り返し地点です。これからそれほど遠くない100年を感じます。

[朝倉芳則]